

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300029		
法人名	医療法人 やわらぎ		
事業所名	グループホーム 共栄の郷		
所在地	北広島市共栄町4丁目11-1		
自己評価作成日	平成23年1月24日	評価結果市町村受理日	平成23年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・病院が母体の為入居者様の状態変化時に24時間体制で相談、適切な指示が仰げ医療との連携がスムーズに図れる又月2回の訪問診察、定期検査により病気の予防、早期発見、治療が行える。</p> <p>・デイサービスが併設されている為、レクリエーション、行事に参加でき他者との交流を行えることから、人間関係の幅が広がり日常生活の中に活気やメリハリが出てくる。</p>
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0191300029&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年2月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>運営母体が医療機関で、ほかにもグループホームはじめ多くの老人福祉施設を擁して、職員教育、食事、医療対応など多くの分野で組織的、総合的な運営体制が整備されている中で、特に健康管理と医療に関するバックアップ体制では24時間いつでも連絡指示を受けられる形になっており、連携の強みを発揮している。</p> <p>デイサービスが併設されており、ホームの利用者がデイサービスに参加し、双方の利用者が交流して人間関係の幅が広がる中で、帰宅願望が解消されるなど有益な効果が生まれている。</p> <p>開設後1年未満の新しい施設で、職員の経験も浅く不慣れな面もあるが、管理者はじめ職員全体に新鮮な意気込みが感じられる。職員の年齢層が厚いことも利用者にも幅広い多面的な対応ができて、良い効果を生んでいる。</p> <p>市の担当職員との関係も良く、有益な指導やサービスを事業所の運営に活用している。</p> <p>近隣の子供たちが気軽に遊びに来たり、利用者の友人が頻繁に来訪して囲碁やカラオケに興じるなど、地域によく溶け込んだ生活を実現している。</p>

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>入職時、オリエンテーションにて説明すると共にユニット内の掲示板上に掲示している。</p>	<p>事業所独自の4項目の理念を掲げ、施設内への掲示、職員の名札の裏への表示、パンフレットへの掲示などで周知を図っている。カンファレンスでは理念に基づいて日常課題の検討を行っている。来年度の年間計画も、理念を基本に作成される予定である。</p>		
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>町内会に入会している。地域の方のボランティアに来て頂いている。</p>	<p>町内会に加入して資源回収などに参加しているが、まだ日が浅く、住民の中に違和感も残っているため、まず職員が馴染みを作って関係を深めていく努力をしているところである。近隣の子供たちが気軽に遊びに来る関係ができています。</p>	<p>町内会との関係強化、地域の小学校や幼稚園との付き合いなども視野に入れて地域とのつながりを深める努力をしているところであるが、その成果に期待したい。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>同業者の情報交換を行い、どのような方法があるが模索中である。ホームでの日々の様子は写真入りの広報誌にて家族様、他事業所に配布している。</p>			
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では入居者様の状況や活動報告等を行い評価や助言を頂いている。</p>	<p>町内会や老人クラブなどには、運営推進会議の意義をよく説明し、理解を得たことによって、積極的な参加を得、活発な討論や助言が得られるようになった。事業所運営の様子、行事、防災訓練などについて話し合わせ、評価についても次回の議題に乗せる予定である。</p>		
5	4	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市内のGH連絡会・運営推進会議等を活用させて頂きながらと、その他にその都度法的に判断に困る時や、不明点、質問がある時は連絡しご協力頂くようにしている。</p>	<p>市の担当者とは良好な関係を築いており、業務上の連絡やアドバイスのほかにも、町内会や老人会との関係作りにも力を貸してくれるなど、緊密な連携ができています。</p>		
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>日々の日常業務の中で何が身体拘束に当たるのかスタッフ間で話し合いながら勉強し、必要に応じ家族様とも話し合っして身体拘束をしないケアに努めている。</p>	<p>法人に身体拘束防止委員会が設けられており、職員が参加して認識を深めている。ベッド柵、布団の鈴など具体的な事例ごとに日々話し合いを行い、拘束を避ける努力をしている。特定の利用者のために、家族の希望もあって、玄関の内側のドアは日中も施錠しているが、解消の方向で検討中である。</p>	<p>玄関の内側のドアの施錠は、家族との相談を重ね、理解を得、安全対策を講じた上で、解除へ向かっての推進を期待したい。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人内で取り組み行われている研修があるので、管理者・スタッフ共に参加し学習の機会を設けている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	名称は理解しているが、実際に該当する入居者様がないことから、本格的に話し合ったり、活用できるような支援に至っていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書に沿って説明をし、質問や対応方法の応答を重ねながら理解・納得の上、契約を締結している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場であったり、ご意見箱を設置している。また、家族様には毎月送付している封書に法人内に設置されている苦情対応委員会宛てに投書用紙を同封し運営に反映できるように努めている。	運営推進会議の場、意見箱、投書用紙の送付などにより、意見の聴取に努めている。面会の場も含めて、服装や温湿度環境など率直な意見が寄せられており、それらの受理、検討、対策などの結果は詳細に記録されている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期ではあるが、全員でのミーティングの場を設けたり、朝の申し送り時や業務中、状況に合わせて時間を設け反映できるように努めている。また全員が目を通す連絡ノートを活用し周知できるように努めている。	日々あるいは月々のミーティングの場で職員の意見を積極的に吸い上げる努力がなされている。業務は管理者任せにせず、職員からも積極的に提言するよう指導しており、実際、業務の手順や流れなどについて率直に提案が行われている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト管理を行い、必要に応じ個人面談を随時行っている。また、職場環境・条件の整備については、法人事務局と連携を図りその都度話し合っており取り組んでいる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護現場が初めてというスタッフが大半を占めることから日々の業務の様子をみて、現場レベルに沿った研修を行っている。また、法人内で他のGH事業所で経験を積んでいる管理者を講師に依頼したり、医療面でも現場レベルに沿って法人看護師にその都度相談に乗って頂いている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では毎月定期で行われている会議やミーティング、情報交換、勉強会も兼ねてサービスの質の向上につながるような機会を設けている。市内の同業者とはGH連絡会を通じ情報交換や勉強会を重ねサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に、入居相談の時点で本人との面談を必須とし、顔馴染みとなるきっかけに努め、入居時にお迎えするようにしている。また、スタッフには入居前に本人がどのような経緯でどのような気持ちで来るか周知するよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に、入居相談の時点で家族との面談を必須とし、家族として本人に対する想いや家族関係、現在の困りごと、不安、要望を聞き、入居してからの家族としての関わり方やホームの関わり方を一緒に考えるように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内に老健や病院など他のサービスも行っていることから、専門的な視野で相談に乗って頂き必要な支援の対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で各入居者様の様子や状況に合わせて出来る範囲で一緒に家事を行うことで、関係性が自然とできるよう努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時や、受診の連絡など日々の生活状況を伝え、必要に応じ病院受診等につき添って頂いたり、外出に行って下さったりと本人を中心に家族の状況や本人との関係性も踏まえながら一緒に考えるように努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に馴染みの家具や物を置いたり、日常会話の中で土地名を出したり工夫に努めている。また、初めて聞くお名前が出てきた時などは、後で家族様に確認し関係性を教えて頂いたりと支援に努めている。	以前の勤務先の同僚、近所の友人などが毎週のように来訪して暮を打ったり、一緒に外出してカラオケを楽しんだりしている。墓参りや懐かしい土地の訪問などは家族が対応している。馴染みの美容院については美容師の側が受け入れてくれないなどの悩みもある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各入居者様の性格や状況を踏まえ、本人の負担にならない程度の促しで、家事やレクを通してスタッフが橋渡し役となり入居者様同士が関わり合い、支え合えるように支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、本人の行き先が困らないように法人内のSWと連携を図り相談や支援に努めている。			
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、普段の会話や様子・関わりから把握に努めている。	一人ひとりの思いや意向の把握には家族とも相談しながらよく気を使っており、注意深く観察し、思いやることで表面とは異なる思わぬ本音を発見したりしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様には日々の生活の会話の中から直接聞いたり、家族様には面会時や必要に応じ連絡を入れた時などに聞いて把握に努めている。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、普段の会話や様子・関わりから把握に努めている。			
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にミーティングやカンファレンスを開きモニタリングに繋げている。本人や家族の希望、要望を取り入れ反映できるようにケアプランを作成している。	計画作成担当者が、アセスメントや主治医意見書、家族要望などを基に原案を作成し、家族と本人に確認して実践し、適宜モニタリングやカンファレンスで職員の意見を取り入れている。	職員の経験が浅いため、まだ計画作成への関わりは薄いですが、経験が深まるとともに職員が主体的に計画作成に関わる形に移行していくことを期待したい。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランについてとその他に気付いた事等生活記録に記入し、スタッフ間で情報を共有し申し送り時や必要に応じて時間を設け実践やケアプランの見直しに活かしている。			
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ建物の中にDSが併設されリハビリの専門職がいることから、連携を図りレクや体操に参加させて頂いている。状況に応じてニーズに対応できるようサービスの多機能化に取り組んでいる。			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	囲碁や楽器演奏等のボランティアを活用させて頂いていることで、表情豊かになったり発言が多くなるなど生活の張りが出て楽しむことができるよう支援している。			
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居相談時からかかりつけ医について相談している。母体が医院のこともありご協力の下24時間365日医療連携が取れるように支援している。	母体の医療機関との連携が強く、訪問診療、24時間支援体制など、利用者にとっての便宜が大きいため、かかりつけ医は全員、協力医療機関に切り替えてもらっている。他科受診は、協力医の協力の下、適切な情報交換が行われ、必要に応じて職員が同行する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師は不在だが、母体が医院で入居者全員が主治医となる為、日々の体調の変化があった時は密な連携が図れ適切な受診や必要な看護を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体の医院とは添書の他、口頭でも申し送りを行うように努めている。また他科入院の場合はSWやNSを通じお見舞い時や必要な時に連絡を取り情報交換や相談に努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、書面を以って説明し同意の下、同意書を頂いている。現在は終末期に該当する入居者様はいないが今後具体的にその入居者様や家族の状況を踏まえながら支援に努める必要がある。	契約の際、重度化した場合と終末期を迎えた場合の対応の仕方について、具体的なケアの内容を記載した書面をもって説明し、確認を交わしている。医療機関との緊密な連携の下で看取りの介護も引き受ける内容となっているが、実践体制の確立はこれからである。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡方法や処置方法等マニュアルに沿って行っている。応急手当や初期対応の訓練は必要に応じては行っているが、定期的に行っていないので実践力は不十分である。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	問題意識としてはスタッフから声が上がっている。昼夜問わず入居者様が避難できる方法については残念ながら不十分である。また地域との協力体制は運営推進会議の議題に上げ今後築いていきたい。	昨年7月と12月に、消防署の指導の下、併設のデイサービスと合同で日中の火災を想定した防災訓練を行った。夜間想定については法人のマニュアルに沿って部分的な訓練を重ねている。地域との協力については町内会と協議が進行中である。	地域との協力体制の実現、および地震や水害対策についても検討することを期待したい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やプライバシーという部分で法人内研修でも取り上げられ、参加することで具体的な言葉や日々の対応の在り方を考え対応するように努めている。	職員は法人内の研修に参加し、参加できない場合も資料を閲覧し、全職員がプライバシーについて理解している。禁止語、否定語、命令口調などの言葉かけとならないように注意し、信頼関係を築く中で、親しい言葉遣いで接することもある。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で自然に働きかけるように声かけを行い、うまく伝えられない入居者様に関しては様子を見ながら関わっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のその日の状況や様子、ペースに合わせて業務を調整するように努めている。必要に駆られ業務やスタッフ側の都合を優先しなければならぬ時は説明・話し合い・同意のもとで行うように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各入居者様の日々の様子や、生活歴のアセスメント、家族からの要望や情報を元に本人や家族と相談しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活の中のメインである家事なので、常に準備から片付けまで一緒に関わるように努めている。また入居者様の好みが出やすいように普段の会話の話題に上げている。	法人の、毎月の給食会議に職員も参加し、利用者の好みを伝え、法人の管理栄養士が作る献立に反映させている。誕生日や大きな行事には職員が食材を調達し、利用者の好む料理を提供している。利用者は調理の段階から、食事の一連の作業に参加している。食事中は一つ的话题を活発に交わり、職員も食事を共にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が立てているメニューをベースに一人一人の状態に合わせて支援している。メニューに関しては、好みを取り入れて頂けるよう定期的に栄養課と会議の場を設けている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。訪問歯科が月に2回来ているので、状況に応じ受診や指導を受けている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターン・汚染状況の把握に努め、失禁が少ない方には布の下着に変え自信が持てるよう支援している。	排泄の誘導が必要な利用者を重点的にチェックし、羞恥心に配慮して誘導している。オムツ使用の場合は、失禁の状態を把握しながら布下着やパットに移行し、自立に向けて取り組み、改善を実現している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各入居者の生活のペースや病状の理解に努めると共に家事を通じた活動やレク参加、食事内容、水分摂取量チェックを通じて予防に取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日々の生活を送る上でスタッフの配置関係や業務内容でおおむね時間帯が決まっているが、入浴希望やタイミング、体調や気分の状態は一人一人に沿えるように配慮し気持ち良く入浴できるように努めている。	いつでも入浴できる態勢で、希望に応じて午前中や夕方に入る利用者もいる。基本的には午後から入浴を実施し、週に2～3回の入浴を支援している。異性介助を嫌がる場合は同性の職員と交代し、また入浴を断る利用者には曜日を変えたり、声かけの工夫で対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者様の生活や病状のペースに合わせて気持ち良く安眠できるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	顔写真入りの一覧の薬説明書を作成し、それを用いながら毎日の服薬時や体調変化の時に活用している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の買物や外食などの外出、大イベント的な行事を企画している。一人一人のできる範囲で準備から一緒に関わることで気分転換が図れるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>日々の生活の中で希望が出た場合、入居者の様子から外出したそうだった場合、天気や身体状況、精神状況に応じて対応するように努めている。</p>	<p>天候を見て、近くの公園やパークゴルフ場を散歩している。季節の外出行事や買い物ツアーに出かけたり、外食や職員の買い物に交代で付いて行くなど外出の機会が多い。冬場は神社での参拝に出かけているが、外出の機会が難しいので、廊下伝いのデイサービスへ遊びに行き、運動に参加して交流している。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理が可能な入居者様は、家族の理解と同意を得てお金を自己管理している。金銭管理が不可能な入居者様はお小遣いとして家族より預かり、必要に応じ本人に説明を行っている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>いつでも対応できるように努めている。また電話や手紙のやり取りができやすいように家族にも配慮し説明を行っている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は全体的に和風を基調に落ち着いた色や雰囲気、夏はエアコン、冬は電化暖房と室温調整に努めている。湿度についてもリビングには加湿器設置、各居室には入居者家族の協力の下加湿器設置を行っている。壁の掲示板には入居者様作成の季節間のある塗り絵や行事の写真を掲示している。</p>	<p>共有空間は明るく、廊下幅は車椅子が行き交うのに十分な広さがある。天井、廊下、ドアなどは「和」の設えで、全体的に落ち着いた洒落た雰囲気である。床は滑らない材質にして、各居室入口の上にライトを取り付け、夜間や移動の安全に工夫されている。壁には時計や日めくり、手作りカレンダーなどが掛けてある。南側から入る光をカーテンで遮断したり、温湿度などの配慮で過ごしやすい環境を作っている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居室が向かい合わせになっていることから、気の合う入居者様同士は廊下で立ち話をしたり、お互いの部屋の行き来を行っている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居相談時から説明を行い、また日々の生活を送る上で本人にとって必要と判断される物は家族と相談をしながら居心地よく過ごせるように努めている。</p>	<p>事業所設置の木製の床頭台は物の整理や飾り棚として便利に使用されている。馴染みのタンス、座椅子、仏壇などが持ち込まれ、家族の写真や装飾品、得意の毛糸編みの作品などを飾り、居心地の良い温かい居室作りが為されている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室には表札を付けたり、トイレドアには認識し易いようにデザインが施されていたり、大きく文字で表示する工夫を行っている。</p>		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300029		
法人名	医療法人 やわらぎ		
事業所名	グループホーム 共栄の郷		
所在地	北広島市共栄町4丁目11-1		
自己評価作成日	平成23年1月24日	評価結果市町村受理日	平成23年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1Fいぶき ユニット」に同じ

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0191300029&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年2月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時にオリエンテーションを必ず行い理念を説明している又職員がいつでも確認出来るよう掲示している		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会、町内の総会にも参加している 地域の方が週1回ボランティアに来ている		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同業者との情報交換を行いどのような方法で活かせるのか模索中である。ホームでの日々の出来事は新聞を毎月発行し家族、他事業所に配布している		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状況、活動報告等を行い、活動に対しての評価、助言を頂いている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、GH連絡会等で相談、アドバイスを担当者から頂いている又市からの連絡事項などはメールでやり取りを行っている		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルでの把握、研修会の参加で知識を深め又日々のケアの中で身体拘束に当たるか職員間で話し合いをし、拘束を行わない様努めている		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の参加、マニュアル作成等で虐待防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護の研修を受けているが全職員共に研修等で深く学ぶ機会は持たれていない又話し合い、活用までは至っていない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書にそった説明をし都度、疑問、質問に答えながら判り易く説明を行っている		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	請求書送付時ご意見用紙を同封し法人内の苦情対策委員会当てまで送付出来るようにしている又玄関先にご意見箱を設置している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見、提案を聞く機会は日々の中で多くあり個人面談も適時行い、法人との連携を図っている		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の実績、努力の把握は行っている、給与水準、労働時間は法人との連携を図り行っている。職員が働きやすく、職員間が、困りごとを一人で抱え込まないような配慮		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会は定期的に行っているので職員がまんべんなく参加出来るようにシフトを調整し、促しを行い外部の研修にも参加出来るよう努めている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回定期で会議を開き、情報交換、活動報告を行っている。2カ月に1度市内のGH連絡会で他同業者との意見交換、勉強会などの情報交換を行いサービス向上に取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に本人との面談を行い困りごと、不安な事を傾聴し入居後も安心して暮らせるよう努めている</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族からの相談の時点で困っている事、不安、要望を傾聴し良い関係を築きながら入居出来るよう努めている</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居前に面談を行い今現在困っていることの把握に努め、法人内にある老健、病院等連携を図り支援できるよう努めている</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者、職員共に調理、掃除、洗濯、買い物等一緒にいき、助け合いながら生活していけるように、入居者様には手伝って頂いたお礼、感謝の言葉を伝えている</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>状態変化が見られた時は家族に報告、相談を行い又面会時は職員が情報を提供することにより、家族が話しやすい雰囲気を作れるよう努めている</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>以前勤めていた同僚又は近所の方々が面会、ボランティアに来て頂いている。又デイサービスに通っていた時のお友達との関係が途切れない様、デイサービスに遊びに行ったりと支援に努めている</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>各個人の性格、状態を把握し会話が苦手な方には職員が間に入りコミュニケーションがスムーズに図れるよう努めている又入居者同士が良い人間関係が築けるよう様子観察し職員がフォロー出来るよう努めている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人のソーシャルワークとも連携を図り退去後も、本人、家族が困らない様相談、支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの希望、意向には努めている、困難な場合は家族とも相談し出来るだけ本人が満足できるように支援している		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時、家族が面会に来られた時、日常の会話の中から生活歴、馴染みの暮らし方等の把握に努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察を通し把握に努め、毎日のミーティングの中で職員間の共有を行っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的又は状態変化時、モニタリング、カンファレンスを開き又本人・家族の希望、要望を取り入れながら介護計画を作成している		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は生活記録に記録し毎日のミーティングで報告、職員間で情報を共有し実践している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多くのニーズに対応出来るよう、併設のデイサービス、リハビリの専門職、主治医との連携を図り対応していけるよう努めている		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	囲碁、楽器演奏等のボランティア、デイの利用者様との交流などを通し豊かな生活が送れるよう支援している		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週2回訪問診療、定期的な検査、状態が悪化した時は24時間適切な指示が受けられ、安心して暮らせるよう支援している。又契約前に家族、本人に説明、了承されている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体的状態変化が見られた時はかかりつけの看護師と連携を取り24時間、適切な指示を受けれるよう支援している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書、情報提供書の提供又面会等で本人の状態を看護師、ソーシャルワーカーに確認し情報交換、相談がスムーズに出来るよう努めている。家族との連絡、相談も行い出来るだけ早期に退院出来るよう、安心して治療が出来るよう努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約前には書面で本人、家族には説明しているがまだ該当者がいない為地域との関係者と共にチームで取り組むまでは行っていない		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル、緊急連絡網等の作成はしているが全職員が実践力を身に付けているまでには至っていない今後、全職員が身につけられるよう勉強会、訓練を行っていきたい		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設されているデイサービス共に避難訓練、消防署が行っている夜間想定避難訓練、部分訓練は行っているが全職員が身につけている、地域との協力までは至っていない		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者様に合わせ人格を否定しないよう配慮し言葉かけを行っている		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るよう本人の言葉を否定しない様又どうしますか、どちらにしますか等本人が決定できる言葉かけを行うよう努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で入居者様に合わせて業務を調整するよう努めているが、どうしても業務を行わなければならない時は入居者様に説明、断りを入れ後日又は時間をずらし希望に添えるよう支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服装、色等が自由に着れるよう支援している。買い物に行った時は本人の好きな洋服、本人の長年使用していた化粧水、整髪剤など購入している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に調理、方付けを行っている又本人の嗜好に合わせて調理、代替えを提供している		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通しての摂取、飲水量がわかるように記録に記入している又冷たい飲み物が苦手な方には温かい飲み物を、飲み物を自分で入れて好きな時に飲めるよう支援している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回入居者様の状態に合わせた声掛け、促しで口腔ケアを行っている又状況に応じ月2回、訪問歯科に診ていただいている		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現段階では日中のオムツ、リハパン使用者はいないが排泄チェック表に記入し排泄の自立に向けた支援が出来るよう努めている		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、食物繊維、乳酸類の提供、毎日の体操等便秘の予防に努めている		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の人数の関係で大体の入浴時間は決まっているが午前中、夕方など本人の気分に合わせて入浴を楽しめるよう支援している		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで生活出来るよう、体操、レクの声かけの時等本人が休みたい時には無理せず、夜間は電気を落とし静かな雰囲気を作り良眠出来るよう努めている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	顔写真入りの薬説明書を作成し、職員一人一人が服用している薬、副作用の把握に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴、趣味を把握し家事、レク、外出、買物等の支援に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じて外出できるよう努めているがその日の状況、天候により日にちがずれる時がある、又本人が行きたい場所などは家族が面会に来られた時伝えるようにしている。家に帰って洋服を取りに行きたいと希望があれば家族に連絡を入れ調整をつけてもらうよう努めている		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方は個人でお財布を持ち買物をしている又外出時は本人の状態により個人で財布を持ち買物出来るよう支援している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば家族、友人との電話連絡が出来るよう支援を行っている又家族にも伝えフォロー出来るよう努めている		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節がわかるように入居者様と一緒に手作りカレンダーを作り、季節に合った飾りものを作成している又入居者様が不快に感じるような大きな音、声は出さない様、光が入りすぎて眩しい時はカーテンを閉めるなど居心地良く過ごせるよう支援している		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルでは気の合うもの同士が座れるよう、ソファではゆっくり新聞などが読めるよう、台所は間口を広くし入居者様が入りやすいよう工夫している		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時に馴染みの家具、持ち物を持参されるよう伝え本人が落ち着ける居室で過ごせるよう支援している		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には表札付け、トイレの鍵は判りやすいように、開ける閉めると表示、ドアは開けやすいように引き戸になっている		

目標達成計画

事業所名 グループホーム共栄の郷

作成日：平成 23年 3月 1日

市町村受理日：平成 23年 3月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	町内会に加入して資源回収などに参加しているが、まだ日が浅く住民の中に違和感も残っている為、まず職員が馴染みの関係を作って関係を深めていく努力をしているところである。近隣の子供たちが気軽に遊びに来る関係ができています。	地域にライフサポート北広島という施設の内容を理解して頂くことができる。	1.職員が積極的に町内会主催の活動や行事、役員会に参加出席し顔馴染みの関係を築く。 2.夏の屋外行事バーベキューには、地域の方々以前以てご案内、ご相談を行った上でお招きする。 3.ライフサポート北広島発行誌(なのはな・ほほえみ)を町内の回覧版に掲載させて頂く。	12ヶ月
2	35	昨年2回に渡り消防署の指導の下、併設のデイサービスと合同で日中の火災を想定した防災訓練を行った。夜間想定については法人のマニュアルに沿って部分的な訓練を重ねている。地域との協力については町内会と協議が進行中である。	防災に対する意識を高め、有事の役割をしっかりと連携を取って行うことができる。	1.部分訓練で毎回緊急連絡網の確認を行う。 2.夜間想定避難訓練を行う。 3.地域への理解を求めると共にスタッフも有事の役割の責任の重さを意識する為に、運営推進会議の議題に上げ、検討の場を設ける。その時スタッフも必ず同席する。	12ヶ月
3	26	計画作成担当者が、アセスメントや主治医意見書、家族要望などを基に原案を作成し、家族と本人に確認して実践し、適宜モニタリングやカンファレンスで職員の意見を取り入れている。職員の介護経験が浅い為、まだ計画作成への関わりが浅い。	ケアマネジメントの流れを理解し、スタッフ全員が担当を持ってケアプラン作成に関わりながら行うことができる。	1.ケアマネジメントの理解について科内研修を行い、各入居者様に対して担当スタッフを決める。 2.計画作成担当者と一緒にケアプランの流れに沿って作成を実践し理解を深める。	12ヶ月
4	6	法人に身体拘束防止委員会が設けられており、職員が参加して認識を深めている。ベッド柵、布団の鈴など具体的な事例ごとに日々話し合いを行い、拘束を避ける努力をしている。特定の利用者の為に、家族の希望もあって玄関の内側ドアは日中の施錠しているが、解錠の方向で検討中である。	入居者様の生活を考慮し、落ち着いて安心した生活を送れるよう、より環境を整えることができる。	1.日々の現場で起こっている事例に沿って、何が身体拘束に当たるのか朝の申し送り時や稼働中に質問が出やすいことから、都度質疑応答・検討を重ね、都度確認していく。 2.施錠に関しては、立地環境により命の安全と身体拘束が背合わせ状態であることから、その方の詳細なアセスメントを行いスタッフ間で情報共有を図り、ライフサポート北広島全体としての対応策を考え解錠の方向で検討を重ねていく。	12ヶ月
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。